

令和元年度第6回理事会議事概要

日 時 : 令和元年9月13日(金) 15:20～16:05

場 所 : 森林総合研究所特別会議室

出席者 :	理事長	沢田 治雄
	理事(企画・総務・森林保険担当)	柳田真一郎
	理事(研究担当)	坪山 良夫
	理事(育種事業・森林バイオ担当)	上 練三
	理事(森林業務担当)	猪島 康浩
	理事(法令遵守担当)	井田 裕之
	監事	鈴木 直子
	監事	平川 泰彦
	総括審議役	吉野 示右
	総括審議役	高橋 和宏
	総括審議役	石原 聡
	審議役	合田 和弘
	企画部長	河原 孝行
	総務部長	永山 正一

1. 開会

(吉野総括審議役)

令和元年度第6回理事会を開催いたします。

本日は報告事項が9件です。それでは順次、説明をお願いいたします。

2. 議事

I-1 国立研究開発法人森林研究・整備機構の令和元年度の会計監査人の選任について

(柳田理事)

令和元年度の会計監査人の選定について、農林水産大臣から当機構が請求していたPwCあらた有限責任監査法人を会計監査人として認められたのでお知らせいたします。

I-2 国立研究開発法人森林研究・整備機構の平成30年度における業務の実績に係る評価結果について

(柳田理事)

平成30年度の法人の業務に関する評価ですが、年度評価について農林水産大臣から通知がありました。各部門ともご苦勞いただき、今回法人評価として全体評価がAとなっています。

I-3 令和2年度国立研究開発法人森林研究・整備機構関係予算概算要求の概要について

(柳田理事)

令和2年度林野庁関係予算概算要求の概要について、資料の表は令和元年度当初予算額と、令和2年度概算要求額の比較となっています。公共事業費、非公共事業費併せ対前年度比116.0パーセントの346,970百万円となっております。

概算要求の重点事項として、林野庁は、林業の成長産業化と「林業イノベーション」の推進を掲げて全体の予算の枠組みを構成しています。公共事業費は対前年度比120.8パーセント、非公共事業費は対前年度比107.1パーセントで、予算の枠組みいっぱいまで要求している内容であります。運営交付金(研究育種部門)は、対前年比106.7パーセント、10,732,410千円で要求されています。施設整備費については、対前年比103.15パーセント、230,065千円の要求となっています。今後財務省との折衝の中で、12月の政府決定まで林野庁と連携して要求がすべて通るよう努めていきたいと思っております。

(猪島理事)

令和2年度の概算要求ですが、森林整備事業(民有林)は対前年度比135.3パーセントの要求となっています。水源林造成事業の一般会計は27,878百万円、対前

年度比 110.6 パーセントで去年の概算要求時の伸率と大体一緒で、国有林直轄の森林整備事業と同程度となっています。この予算の中には緊急対策は入ってきていませんので、令和元年度と同程度の予算措置がされると思われます。今後、こちらについても財務省と詰めていくことになると思われます。それと、復興特別会計は対前年度 100 パーセントの 514 百万円です。

非公共预算の幹線林道事業移行円滑化対策交付金については、対前年度比 94.0 パーセントと前年より減っているのですが、これはシステム委託料が必要なくなったため減額となっています。復興特別会計分の放射性物質対処型森林・林業再生総合対策費は対前年度比 99.6 パーセントになっていますが、必要額が措置されています。今後、年末の概算決定まで、予算確保のためしっかりと努力していきたいと思います。

(鈴木監事)

復興特別会計についてですが、研究部門の放射性物質への対策とどのような色分けがされているのでしょうか。整備センターの職員も、研究所の職員と一緒に調査地に向かうこともあると思うのですが。

(柳田理事)

森林整備センターのこの予算は、放射性物質に汚染された区域の契約地で森林整備をする際、例えば作業道を敷設する場合、放射性物質の移動を抑える柵を作るなどに使えるもので、別枠でいただいている予算です。

I-4 創立記念式典等の開催について

(永山総務部長)

創立記念式典(114周年)を令和元年11月1日(金)の午前11時から行います。理事長式辞、理事長賞表彰を大会議室で行う予定です。また同日午後には令和元年度理事長賞表彰者による講演会を開催したいと思っています。詳細につきましては、連絡調整会議等を通じて所内の方に周知したいと思っています。

I-5 早期退職者の募集について

(永山総務部長)

組織の年齢別人員構成の適正化と組織の活性化を図るため、本年度も早期退職者の募集を実施します。森林総合研究所等においては3名程度、森林整備センターにおいては若干名募集したいと思っています。

I-6 森林整備センター令和2年4月1日付け職員採用試験結果及び追加募集について(非公表)

※猪島理事から本件の説明が行われた。

I－7 特定中山間保全整備事業等の事後評価について

(高橋総括審議役)

事後評価については、政策評価法と農林水産省の政策評価基本計画に基づきまして、事業完了後おおむね5年経過後に実施することになっています。今回は平成24年度に完了した特定中山間保全整備事業「南富良野区域」と、農用地総合整備事業「美濃東部区域」両事業の事後評価の調査を昨年度から行っております。令和元年度の事後評価結果が決定しましたので、8月30日(金)農林水産省ホームページで公表されました。評価の結果については資料のとおりになります。

I－8 令和元年度第1回森林保険センター統合リスク管理委員会審議概要(非公表)

※石原森林保険センター所長から本件の説明が行われた。

I－9 令和元年8月の前線に伴う大雨による災害に係る森林保険事務の対応について

(石原森林保険センター所長)

先般の令和元年8月の前線に伴う大雨による水害が発生し、災害救助法が適用された佐賀県地域を対象に、森林保険契約の継続手続きの猶予措置を定めた通知を発出しています。内容としましては、保険契約者が契約の延長をする場合に半年間の猶予を設定することとしています。今回の対象となるところは佐賀県全域(10市10町)です。このことについてはホームページで公表し、PRしてまいります。なお、近隣の市町村についても柔軟に対応する考えです。昨年も、7月、8月の豪雨、北海道胆振東部地震について災害救助法が適用されているため、同様の措置をしております。今年度につきましても、台風15号(千葉県)に伴う災害が災害救助法の適用となっているので、同様に保険の契約の延長の手続きをしていきたいと考えています。また、今後災害が発生した場合も同様の対応といたします。

(吉野総括審議役)

ほかに質問がないようでしたら、これで令和元年度第6回理事会を終了いたします。次回は10月11日(金)に森林総合研究所で行います。

3. 閉会